

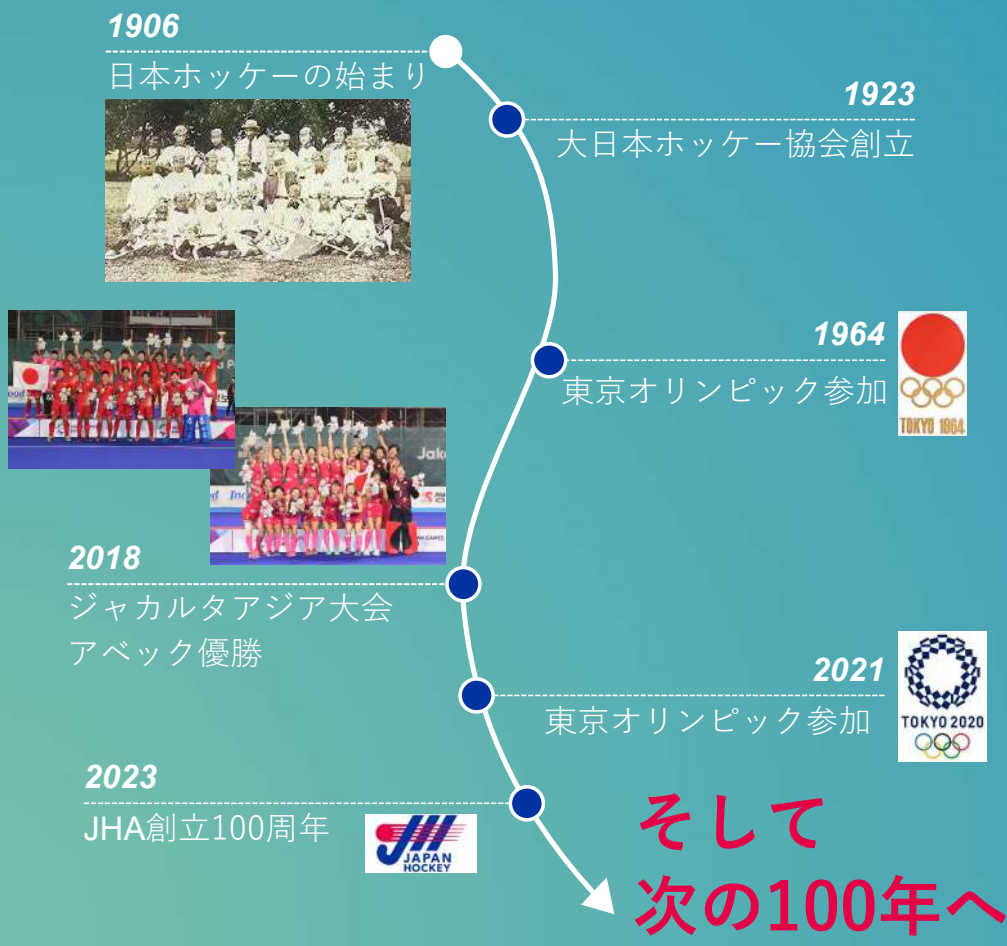
Japan Hockey Road to 2030



~東京2020レガシーでホッケーの新時代を創る~

Updated: 2021年5月25日

JHAの軌跡、 そしてこれから



JHAは2023年に創立100周年を迎える

これから2030年までの10年は
今後の100年を創る、
新時代の幕開けである

この10年でより国内での
Hockey Familyの拡充
そしてグローバルにおける
コネクションを強化し
世界における日本の
プレゼンス向上を図る
大切な期間となる



Japan Hockey Road to 2030

理念・ビジョン・スローガン

東京2020オリンピック競技大会をきっかけに世の中がスポーツに、そしてホッケーにもより注目するきっかけとなった

しかし東京2020オリンピック競技大会は始まりにすぎず、そのレガシーとして日本ホッケー協会は何ができるのか

さらに2023年JHA設立100周年、2024年パリオリンピック、2028年ロサンゼルスオリンピックと向こう10年、JHAにとって転機となるマイルストーンが多数存在する

そのため、JHAとして今後10年を見据えて「Japan Hockey Road to 2030」を策定し、今後10年の活動の基盤となる理念・ビジョン・スローガンを設定した

理念

ホッケーを通じてスポーツ文化の振興に努め、豊かな社会形成に貢献する

ビジョン

JHAは、ホッケーファミリーのつながりを大切にし、ホッケーファミリーの未来への活力を創造し、ホッケーファミリーの豊かさと楽しさの提供に努めます

スローガン

Try all !! (for the hockey family)
全力で全員でやるべきことをやってみよう、やり尽くそう、挑戦あるのみ。
それは未来のホッケーファミリーのため



『Japan Hockey Road to 2030』の基本指針



基本指針

この度「Japan Hockey Road to 2030」の内容を策定するにあたり、次の3つを基本的な方針として設定した

これらは今後、実施しなければならないタスクが明らかになり、それに対するアクションプランを策定する際、基本となる方針である

1

ホッケーを通じて楽しみ・感動を分かち合い、
お互いに支え合えるような社会を
実現することを目指す

- ◆ ホッケーを通じて日本を元気にしていく
- ◆ 社会に貢献する

2

「ホッケーファミリー」の拡大に向けて行動する

- ◆ ホッケーに何らかの形で関与する人々を「ホッケーファミリー」と定義
 - ◆ 競技者のみならず、家族、指導者、地域、行政、教育機関、職場、観客、視聴者、ファン、スポンサー、メディア等ホッケーに何らかの関与をもつ人々
- ◆ 一人一人がホッケーファミリーのために行動する
- ◆ 社会に幅広く支持される組織・選択される競技となることで、結果としてホッケーファミリーが拡大することを目指す

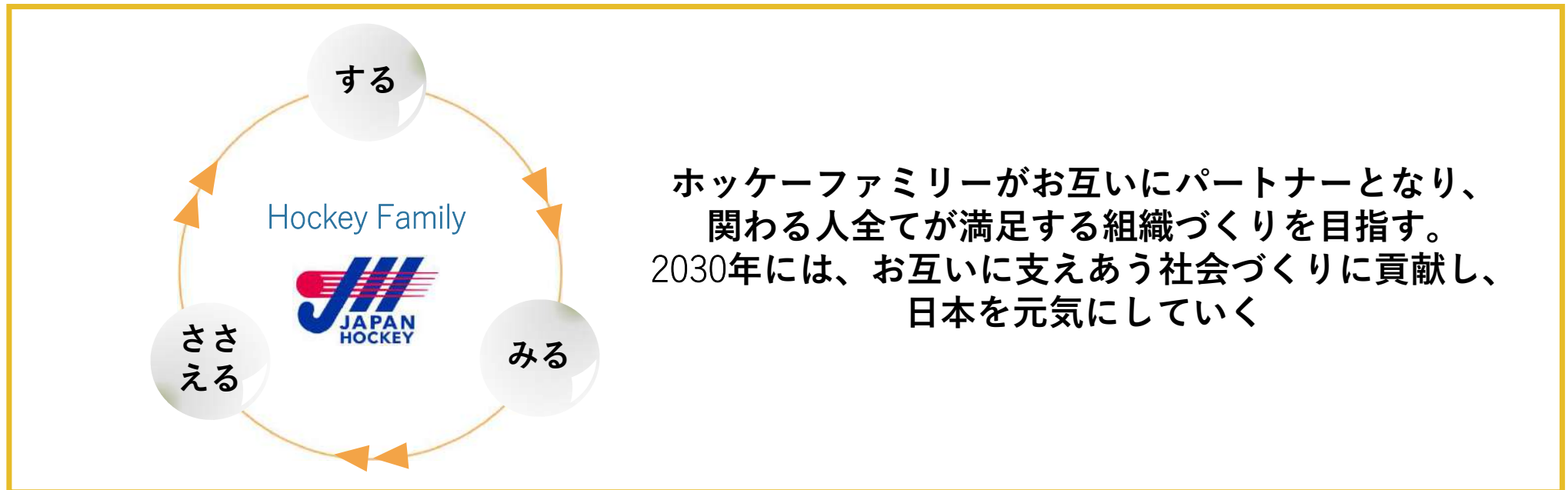
3

基本的な考え方を尊重する

- ◆ 人の重視（「する」「みる」「ささえる」）
- ◆ 連携・協働の推進による開放的な組織
- ◆ 未来志向でのアプローチ



2030年の「あるべき姿」

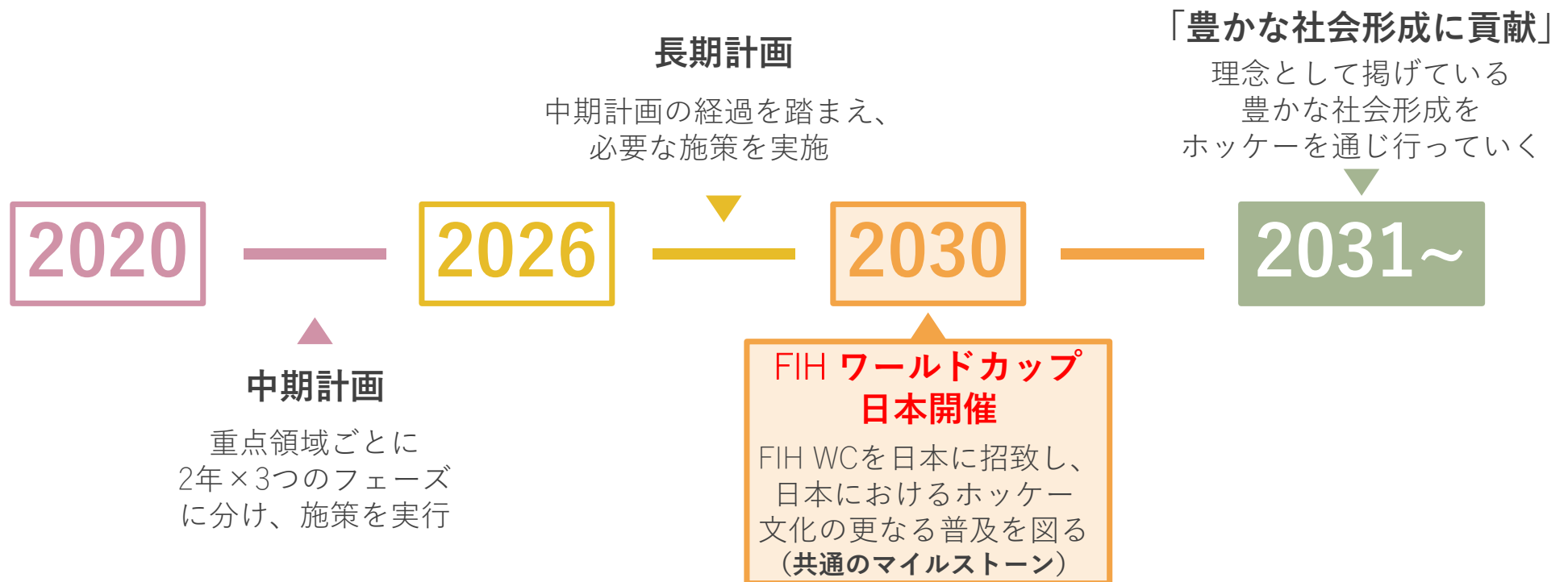


社会から存在価値を認められる組織に！



Japan Hockey Road to 2030 ロードマップ概略

- ホッケーを通じて「豊かな社会形成に貢献」するという理念を実現すべく、中期的・長期的な計画を着実に実行する
- そのマイルストーンとして、「2030年FIHワールドカップの日本（東京）開催」というホッケーファミリー全体での具体的な共通目標を定める





2030年WCを柱としたホッケー変革

これからの10年でJHAの理念・ビジョン・スローガンや基本方針を体現化するために、
2030年に日本にホッケーワールドカップを招致し、開催する

そのために一層の組織力強化や財政基盤の拡充を図り、
全国のホッケーファミリーの拡充やホッケー文化の醸成を図る重要な期間

設立100周年を迎えようとする日本ホッケー協会にとって、
この取り組みは、日本におけるホッケー文化を大きく変え、
次の100年を作っていく大きな変革を創出する

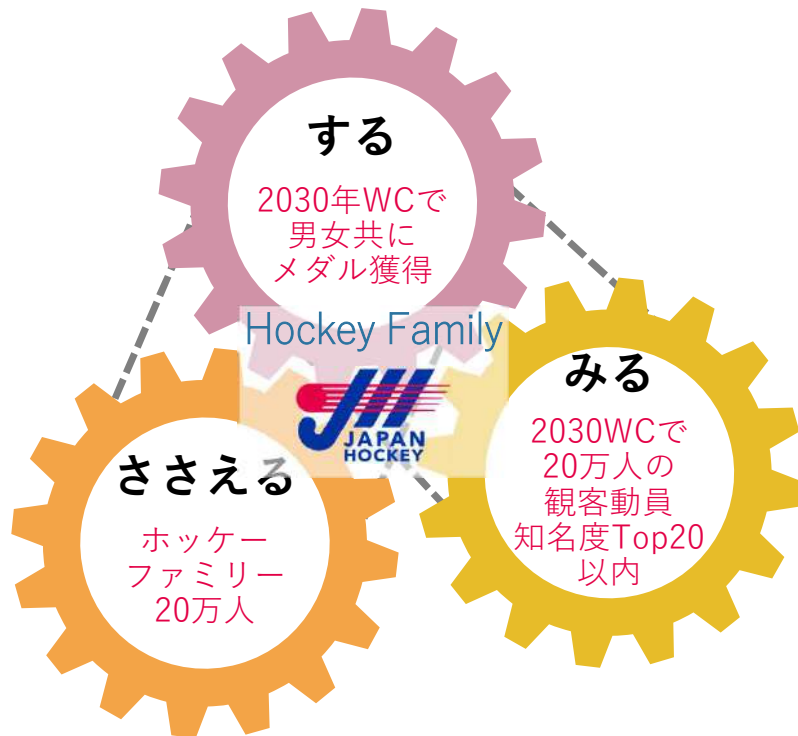


全ては2030年のために



2030年の「あるべき姿」達成するための目標について

Hockey Familyの「あるべき姿」



Hockey Familyの「する」「みる」「ささえる」は独立しているのではなく、それぞれが成長し、2030年のWCを柱とした目標に近づくことでシナジーを創り出し、結果2030年の「あるべき姿」を達成できる

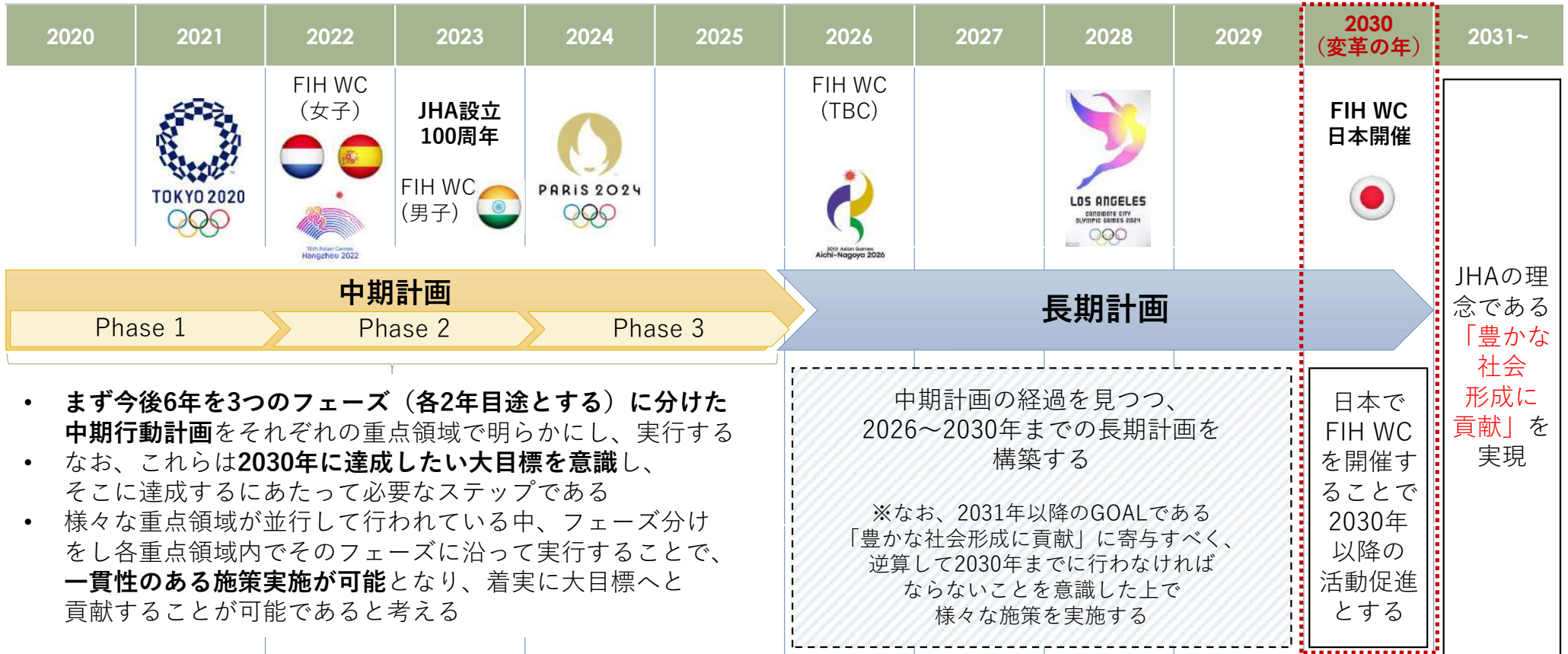


Japan Hockey Road to 2030

実施施策概要及び詳細

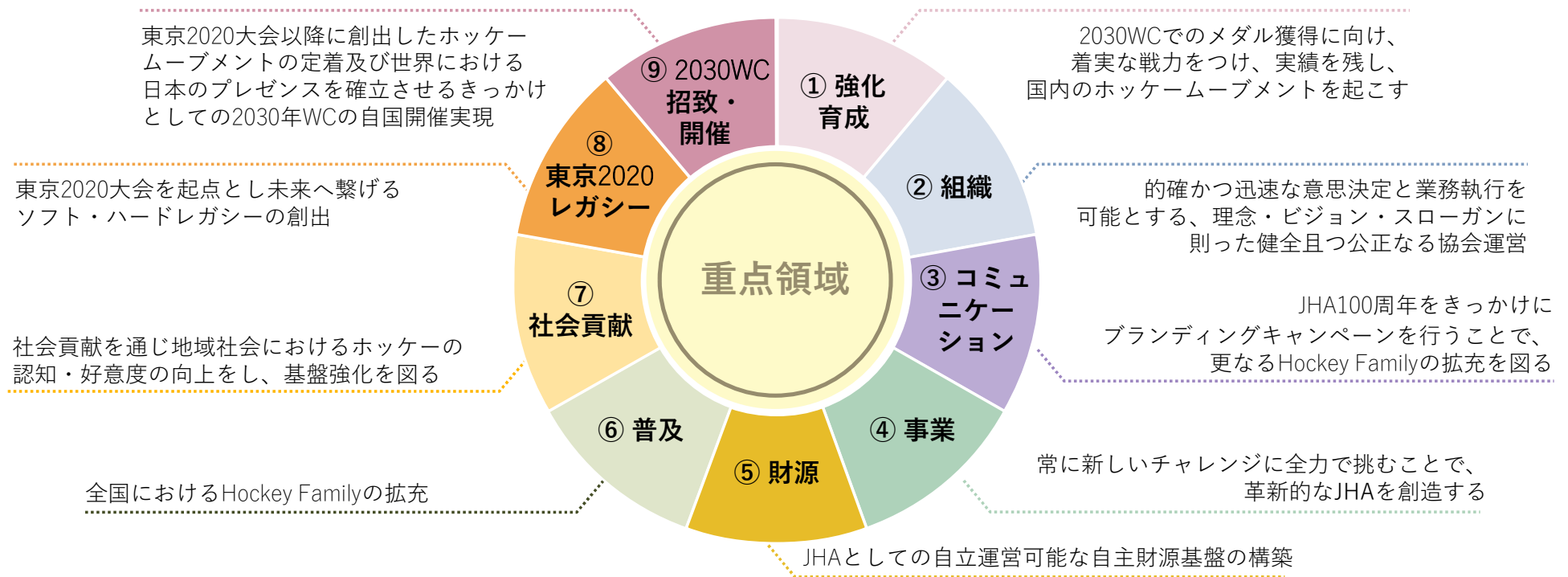


Japan Hockey Road to 2030ロードマップ概要





Japan Hockey Road to 2030の9つの重点領域



これら9つの重点領域をベースに2030年までのアクションプラン及びタスクを明確にしていく



重点領域概要及びアクションアイテム(1/2)

#	重点領域（大項目）		#	アクションアイテム（中項目）
1	強化育成	<ul style="list-style-type: none"> 2030WCでのメダル獲得に向け、着実な戦力をつけ、実績を残し、国内のホッケームーブメントを起こす 	A	日本代表強化
			B	U21/U18/U15/U12の育成環境の整備・充実
2	組織	<ul style="list-style-type: none"> 的確かつ迅速な意思決定と業務執行を可能とする、理念・ビジョン・スローガンに則った健全且つ公正なる協会運営 	A	組織基盤の構築・強化
			B	JHA Presenceの向上
			C	人材育成・養成
3	コミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> JHA100周年をきっかけにブランディングキャンペーンを行うことで、更なるHockey Familyの拡充を図る 	A	ブランディング
			B	パートナーシップ/B2Bマーケティング
			C	ICTの活用
4	事業	<ul style="list-style-type: none"> 常に新しいチャレンジに全力で挑むことで、革新的なJHAを創造する 	A	各種大会の再設計
			B	インドアホッケー
			C	JHA100周年
5	財源	<ul style="list-style-type: none"> JHAとしての自立運営可能な自主財源基盤の構築 	A	パートナーとの連携強化
			B	財源システムの再構築



重点領域概要及びアクションアイテム(2/2)

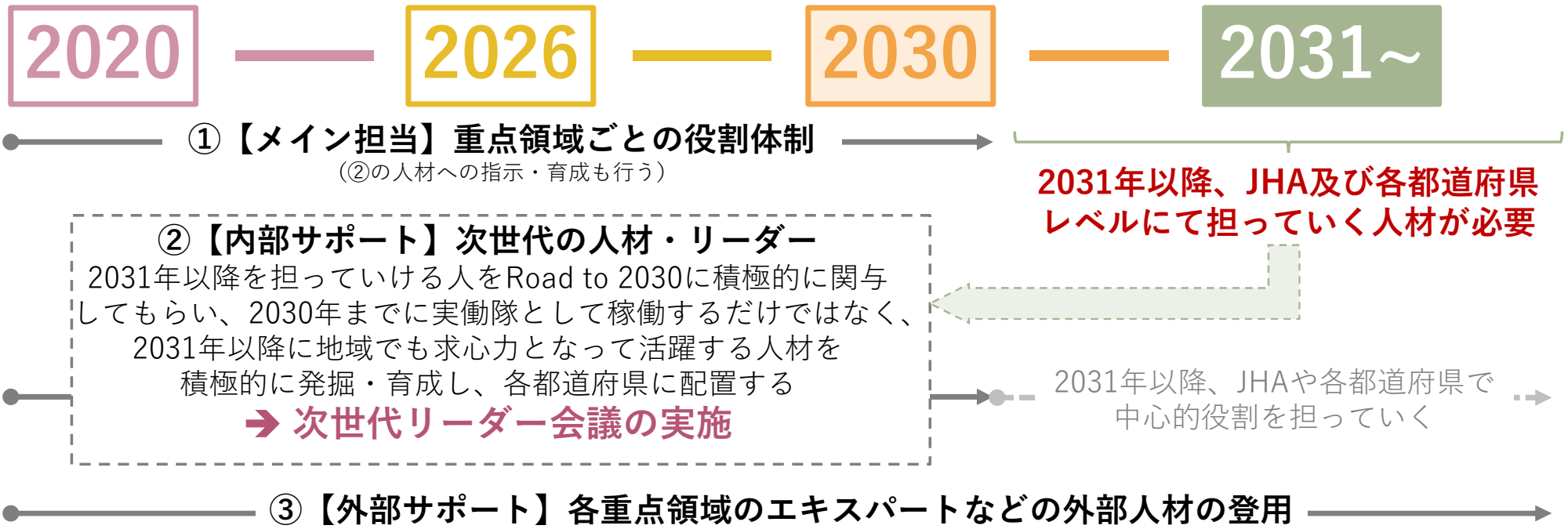
#	重点領域（大項目）		#	アクションアイテム（中項目）
6	普及	<ul style="list-style-type: none"> 全国におけるHockey Familyの拡充 	A	（する）競技者拡充
			B	（みる）観戦環境整備
			C	（ささえる）支援体制・環境制度整備
7	社会貢献	<ul style="list-style-type: none"> 社会貢献を通じ地域社会におけるホッケーの認知・好意度の向上をし、基盤強化を図る 	A	SDGsの取り組み
			B	ユニセフの取り組み
			C	国際交流の促進
8	東京2020 レガシー	<ul style="list-style-type: none"> 東京2020大会を起点とし未来へ繋げるソフト・ハードレガシーの創出 	A	大会運営ノウハウの継承
			B	大井ホッケー競技場(OHS)の活用
			C	セカンドキャリア支援
9	2030WC 招致・開催	<ul style="list-style-type: none"> 東京2020大会以降に創出したホッケームーブメントの定着及び世界における日本のプレゼンスを確立させるきっかけとしての2030年WCの自国開催実現 	A	2030WC誘致に向けた基盤づくり



実施体制：概要

- ・ Road to 2030をスピード感を持って実施するには、JHAだけではなく各都道府県や関連組織を含めた実働体制の構築が肝要
- ・ 長期的な観点から、各領域で求心力となる次世代人材・リーダーの発掘・育成と積極的な関与が求められる
- ・ この次世代人材による未来志向の行動が、将来の強靱な組織体制の基盤となると確信

サポート体制含む実施体制





① 【メイン担当】 重点領域ごとの各委員会・本部での役割分担（案）

✓ リード
 ✓ サブ
 ✓ サポート

これらタスクを実施するにあたり、シナジーを最大化させるために、縦軸・横軸双方の連携を意識した体制をあらかじめ明らかにし、取り組むことが求められる

重点領域	1. 強化育成	2. 組織	3. コミュニケーション	4. 事業	5. 財源	6. 普及	7. 社会貢献	8. 東京2020レガシー	9. 2030WC招致・開催
関連部署(2020年4月時点)									
A. 強化本部	✓	✓							✓
B. 普及委員会	✓			✓		✓	✓	✓	
C. 総務委員会		✓	✓		✓	✓	✓		
D. 財務委員会	✓		✓	✓	✓	✓			✓
E. 技術委員会		✓		✓		✓		✓	
F. 国際委員会	✓	✓	✓						✓
G. 広報委員会	✓		✓	✓		✓	✓	✓	✓
H. マーケティング委員会	✓		✓	✓	✓		✓		
I. 事務局	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
J, 特命(新規)	✓	✓		✓				✓	✓
	プロリーグ・2030WC招致 アスリート	組織改革 推進チーム		イベント				アスリート	プロリーグ・2030WC招致



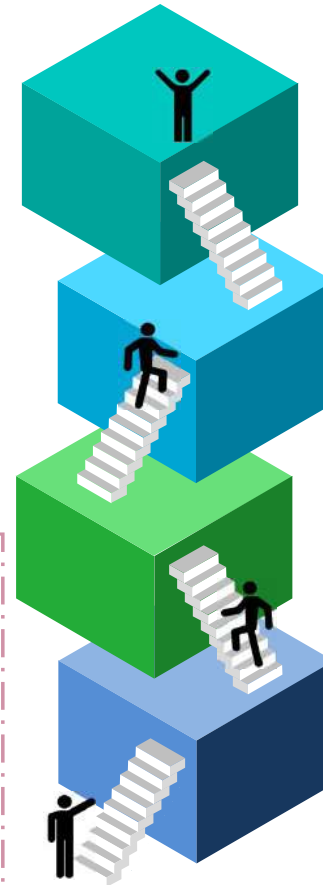
②・③ 【内部・外部サポート】 次世代リーダー及びエキスパート人材の登用

② 【内部サポート】次世代リーダーの登用

- 2030年までの10年間を通し、実働隊として関与し動ける若手人材が全国区で必要
- 団体として中長期的な人材戦略が必要であり、2030年までの間にRoad to 2030に積極的に関与し、サポートを通じ、プロジェクト完了後の2031年以降、JHAだけではなく求心力となり基盤人材となり活躍する人材を各都道府県に配置することで、全国におけるホッケー文化・ホッケーファミリーの拡充をより強固なものにしていく

③ 【外部サポート】エキスパート人材の登用

- タスクによっては、特殊スキルやエキスパートのサポートが必要
- 副業・兼業として、外部の人材を積極的に活用し、最大の効果を出す
(例) マーケティング、戦略、PRなど



Step 4: 次世代リーダーとして JHAの将来を担う

2031年以降にJHAだけではなく各都道府県における求心力となり基盤人材となり活躍する人材となる

Step 3: Road to 2030への参加

重点領域ごとのチームのリーダー・サブリーダーを中心に、全国の現場で活躍する人材へと育成

Step 2: プロジェクトへの配置

次世代リーダー会議へ参加後、Road to 2030の中でも参加したい重点領域などをヒアリングの上、人材を配置

Step 1: 次世代リーダー会議の実施

全都道府県から最低各1名が参加した意欲のある次世代リーダー会議を実施

これらのステップを通じ次世代人材を育成
② 次世代人材の登用・育成・活用



Japan Hockey Road to 2030 コミッティ

- Road to 2030を実施するにあたり、円滑かつ確実なプロジェクト遂行に向けて、Japan Hockey Road to 2030コミッティを特別委員会として設置する（業務執行理事会管轄）

【役割】プロジェクトの全体進捗管理を行う（四半期レポート管理も含む）。また、中期計画遂行中に随時プロジェクトレビューを行い、2026~2030年の長期計画の構築も行う

Japan Hockey Road to 2030コミッティ概要

進捗管理担当

- 四半期レポート管理
- 各重点領域ごと

コミッティ

次世代リーダー担当

- 全体プランニング
- モジュール管理
- 各都道府県・ブロックとの調整



サブリーダーについて

業務執行理事会

Japan Hockey Road to 2030コミッティ

- ・ コミッティ長：渡辺健一
- ・ 副コミッティ長：近藤 聡史（次世代リーダー担当）
- ・ 事務局：坂本 幼樹（進捗管理担当、事務局長）、井上 智晶（進捗管理担当、事務局員）

重点領域	1. 強化育成	2. 組織	3. コミュニケーション	4. 事業	5. 財源	6. 普及	7. 社会貢献	8. 東京2020レガシー	9. 2030WC招致・開催
リード部署	強化	事務局	マーケティング	技術	財務	普及	総務	(特命)	国際
リーダー*	渡辺 健一	濱田 清二	坂本 幼樹	近藤 聡史	井上 雄介	大久保 文義	奥田 竜子	多氣 洋平	近藤 聡史
サブリーダー	安西 浩哉	井上 雄介	梅本 勝利	宮野 正喜	坂本 幼樹	石川 伸男	井上 智晶	近藤 聡史	中野 雅文
	永井 祐司	大久保 文義	井上 智晶	福島 雅裕	井上 智晶	梅本 勝利		坂本幼樹	西澤英一郎
		奥田 竜子	福島 雅裕			久保 克敏		下平歩実	
						小原 直也		喜友名 詩織	



1. 強化育成



1. 強化育成

◆概要

リーダー	<ul style="list-style-type: none"> 渡辺 健一 		
サブリーダー	<ul style="list-style-type: none"> 安西 浩哉 永井 祐司 		
関連委員会署	<p>【リード】強化本部</p> <p>【サブ】普及委員会、技術委員会、国際委員会、広報委員会、マーケティング委員会、特命（プロリーグ・2030WC招致）</p> <p>【サポート】財務委員会、事務局</p>		
目的	<ul style="list-style-type: none"> 2030WCでのメダル獲得に向け、着実な戦力をつけ、実績を残し、国内のホッケームーブメントを起こす 		
アクション項目	<p>A) 日本代表強化</p> <p>B) U21/U18/U15/U12の育成環境の整備・充実</p>		
KPI	<p>①2024パリオリンピック男女メダル獲得 ②FIH世界ランキング8位以内 ③U21/U18アジア1位 ④JHA強化本部登録指導者各2名（毎年）</p>		
測定方法	<p>①2022アジア大会・2023オリンピック予選・2024パリオリンピック ②ランキング対象試合毎の検証。FIHからのワールドランキング発表のタイミングの実績評価。 ③各カテゴリー毎の国際大会や試合の結果 ④JHA専属指導者数として認められた指導者数。</p>		
フェーズ別アクション	Phase 1	Phase 2	Phase 3
	U12~日本代表までの一貫指導体制の構築・確立すると共に、サポート体制を構築する	各カテゴリーが国際大会においてメダル獲得するためにPhase 1で確立したシステムをロールアウトする	Phase 1-2にて発掘・育成したタレントが日本代表としてアジアでのポジションを確立し、さらに世界においてもトップ国のポジションを確立する



1. 強化育成

◆詳細◆ A. 日本代表強化 (1/3)

アクションプラン (小項目)	小項目説明	タスク (案)	Phase 1	Phase 2	Phase 3
i 世界で戦う "サムライジャパン" "さくらジャパン" の確立	2024年パリ オリンピックで メダル獲得し、 世界ランキングで 8位以内に入 ることを 目標とする*	2020年東京オリンピックの検証を行う	U12~日本代表までの一貫指導体制の構築・確立すると共に、サポート体制を構築する	パリ大会においてメダル獲得するためにPhase 1で確立したシステムをロールアウトする	Phase 1-2にて発掘・育成したタレントが日本代表としてアジアでのポジションを確立し、さらに世界においてもトップ国のポジションを確立する
		強化本部の再編を行う (チームスタッフ、フロント体制の最適化、強化本部、カテゴリーを超えた調整機能の設置、など)			
		2024年パリオリンピックまでの強化ロードマップの策定*			
		世界各国の戦術調査及び分析を行う (計画立案→実施・分析→結果発表)			
		パリ大会及びロス大会に向けての検証・戦略構築		(パリ2024)	(ロス2028)

*アジア大会での優勝の上、オリンピック出場権確保を含む



1. 強化育成

◆詳細◆ A. 日本代表強化(2/3)

アクションプラン (小項目)	小項目説明	タスク (案)	Phase 1	Phase 2	Phase 3
ii 国際競技力の強化	強豪国との強化 パートナーシップや 海外ホッケー留学を 推進することで、 国内外の 強化システムの 構築と実践を行う	JHA交渉渉外担当部署・人材の企画及び設置	U12~日本代表までの一貫指導体制の構築・確立すると共に、サポート体制を構築する	パリ大会においてメダル獲得するためにPhase 1で確立したシステムをロールアウトする	Phase 1-2にて発掘・育成したタレントが日本代表としてアジアでのポジションを確立し、さらに世界においてもトップ国のポジションを確立する
		海外強豪国との戦略的強化試合の計画・実施			
		海外トッププレイヤーのクリニックや日本リーグへの招聘			
		国内プレイヤーの海外派遣・研修(武者修行)			
		強豪国やフランスとの強化パートナーシップを通じた国外強化拠点の確立			



1. 強化育成

◆詳細◆ A. 日本代表強化(3/3)

アクションプラン (小項目)	小項目説明	タスク (案)	Phase 1	Phase 2	Phase 3
iii 日本代表の活動環境の最適化	衣食住を含む総合サポート体制の最適化を行う	(衣) 機能力・競技力向上を促進する衣服の支給	U12~日本代表までの一貫指導体制の構築・確立すると共に、サポート体制を構築する	パリ大会においてメダル獲得するためにPhase 1で確立したシステムをロールアウトする	Phase 1-2にて発掘・育成したタレントが日本代表としてアジアでのポジションを確立し、さらに世界においてもトップ国のポジションを確立する
		(食) 栄養管理のサポート体制の向上			
		(住) パフォーマンスを発揮できる宿泊環境の整備			
		(体) フィジカルトレーニング環境の整備・構築			
		(体) リカバリー・リハビリへのアクセス整備			
		(心) その他メディカルサポート (メンタル他) のサポート体制の向上			
		(知) 他競技団体との交流によるモチベーション促進			
iv プロリーグへの参戦	強豪国との切磋琢磨による競技力向上を目的に、2023年からのプロリーグ参戦する	参戦検討・合意形成			
		参戦要件を満足させる設備・体制・スケジュールの構築			



1. 強化育成

◆詳細◆ B. U21/U18/U15/U12の育成環境の整備・充実(1/4)

アクションプラン (小項目)	小項目説明	タスク (案)	Phase 1	Phase 2	Phase 3
i 年代別育成 方針の 確立と構築	U18/U16/U12について、中長期視野に基づいた一貫指導体制と年代別選手育成方針を確立させる	現状検証 (各カテゴリー)	U12~日本代表までの一貫指導体制の構築・確立すると共に、サポート体制を構築する	パリ大会においてメダル獲得するためにPhase 1で確立したシステムをロールアウトする	Phase 1-2にて発掘・育成したタレントが日本代表としてアジアでのポジションを確立し、さらに世界においてもトップ国のポジションを確立する
		日本代表~U12までの強化本部の確立			
		育成事業体制の構築 (チームスタッフ、マネジメント体制の最適化)			
		ロス2028大会を念頭に強化本部での一貫指導体制の確立と情報共有し、定例評価会議を実施の上、方針・目的・目標・計画を明らかにする			
		強化スタッフの構築と環境と保証		(継続して改善)	(継続して改善)
		各カテゴリーの拠点施設と環境			
		スタッフ・選手の経済的負担の整備			
		各事業でのJHA主体の体制構築 (選考会・強化事業等)			
		2028年LAオリンピックまでの強化ロードマップの策定*			

*アジア大会での優勝の上、オリンピック出場権確保を含む



1. 強化育成

◆詳細◆ B. U21/U18/U15/U12の育成環境の整備・充実(2/4)

		Phase 1	Phase 2	Phase 3	
アクションプラン (小項目)	小項目説明	タスク (案)	U12~日本代表までの一貫指導体制の構築・確立すると共に、サポート体制を構築する	パリ大会においてメダル獲得するためにPhase 1で確立したシステムをロールアウトする	Phase 1-2にて発掘・育成したタレントが日本代表としてアジアでのポジションを確立し、さらに世界においてもトップ国のポジションを確立する
ii タレント発掘と育成システムの構築	タレント発掘システム及び選手育成システムの構築と運営を行い、中長期的な育成環境の充実を図る	年代別選手育成方針に基づいたタレント発掘システム・育成システムの検討・構築			
		ホッケー経験者からのタレント発掘システムの構築			
		ホッケー未経験者（他競技）からのタレント発掘システムの構築			
		都道府県レベルでのタレント発掘システムの構築			
		タレント発掘システム・育成システムの運営体制及びマネジメント能力者の配置と育成		(継続して改善)	(継続して改善)
		指導プログラムの開発			



1. 強化育成

◆詳細◆ B. U21/U18/U15/U12の育成環境の整備・充実(3/4)

アクションプラン (小項目)	小項目説明	タスク (案)	Phase 1	Phase 2	Phase 3	
			U12~日本代表までの一貫指導体制の構築・確立すると共に、サポート体制を構築する	パリ大会においてメダル獲得するためにPhase 1で確立したシステムをロールアウトする	Phase 1-2にて発掘・育成したタレントが日本代表としてアジアでのポジションを確立し、さらに世界においてもトップ国のポジションを確立する	
iii	エリート選手養成 (アカデミー)制度	2030年までにJHAアカデミーを設立し、選手育成環境の拡充を図る	他競技、他国の育成・アカデミー設置状況に関する調査・研究を行う			
		JHAアカデミーの計画・立案				
		JHAアカデミーとNTCとの関係性構築・明確化を行う				
		JHAアカデミー運用・体制				
		将来構想～海外派遣（短期・中期）				
iv	U21/U18/U15日本代表の国際試合経験値の蓄積	ジュニア・ユース日本代表の国際試合に参加し、試合経験値を蓄積することで、長期的な選手育成を図る	2028年ロスオリンピックに向けての具体的なロードマップ策定*			
		アジア、そしてその先のロス大会への強化を目的とした国際試合に定期的に参戦する機会を作る				

*アジア大会での優勝の上、オリンピック出場権確保を含む



1. 強化育成

◆詳細◆ B. U21/U18/U15/U12の育成環境の整備・充実(4/4)

			Phase 1	Phase 2	Phase 3
アクションプラン (小項目)	小項目説明	タスク (案)	U12~日本代表までの一貫指導体制の構築・確立すると共に、サポート体制を構築する	パリ大会においてメダル獲得するためにPhase 1で確立したシステムをロールアウトする	Phase 1-2にて発掘・育成したタレントが日本代表としてアジアでのポジションを確立し、さらに世界においてもトップ国のポジションを確立する
v 海外派遣・ 招聘システムの構築	日本トップレベル選手及び指導者の海外派遣及び海外トップレベル選手の招聘を行うことで、トップレベルの競技環境に触れ、競技力アップに努める	ヨーロッパ、アジア、オセアニアへの調査、交渉、調整			
		有望選手の派遣・招聘システムの構築、派遣	構築	派遣	
		優秀指導者の派遣・招聘システムの構築、派遣	構築	派遣	
		国・クラブレベルでの提携			



2. 組織



2. 組織

◆概要

リーダー	<ul style="list-style-type: none"> 濱田 清二 		
サブリーダー	<ul style="list-style-type: none"> 井上 雄介、大久保 文義、奥田 竜子 		
関連部署	【リード】事務局 【サブ】強化本部、総務委員会、技術委員会、国際委員会、特命（組織改革推進チーム）		
目的	<ul style="list-style-type: none"> 的確かつ迅速な意思決定と業務執行 理念・ビジョン・スローガンに則った健全且つ公正なる協会運営 		
アクション項目	<ul style="list-style-type: none"> A) 組織基盤の構築・強化 B) JHA Presenceの向上 C) 人材育成・養成 		
KPI	<ul style="list-style-type: none"> (TBD) 		
測定方法	<ul style="list-style-type: none"> (TBD) 		
フェーズ別 アクション	Phase 1	Phase 2	Phase 3
	協会組織形態の 検討・構築(JHA)及び 協会運営を支える人材の育成	JHA及び国内外の関連団体との 関係促進を図るための組織形態 見直し・再構築、及び人材の設置	国内外における更なる JHAのプレゼンス向上



2. 組織

◆詳細◆ A. 組織基盤の構築・強化 (1/2)

アクションプラン (小項目)	小項目説明	タスク (案)	Phase 1	Phase 2	Phase 3
JHAの組織基盤の構築と強化	Road to 2030を実現するためのスポーツガバナンスコードに則った組織の抜本的な再構築	ガバナンスの強化検討を行う組織改革推進チームの立ち上げ	日本における組織形態の検討・構築をし、人材の発掘育成を行う	育成した人材を国内においてのプレゼンス向上を行う	Phase 2で国内でのプレゼンスの向上を行った後、Phase 3にて国外においてのプレゼンス向上させる
		JHA組織改編の実行			
		人事戦略人材育成（事務局の人材育成、役員研修の実施、人事考課制度の導入、個人目標と評価、処遇の最適化、女性管理職の登用）			
		組織運営戦略（事業計画・進捗状況のチェックプロセスの構築・徹底）			
		業務効率改善（業務の洗い出し、プロセスの再検討と明文化、他のNFとのバックオフィス共同化や委託）			
		戦略的な予算配分・チェックプロセスの構築			
		各種規約規定の再整備			



2. 組織

◆詳細◆ A. 組織基盤の構築・強化 (2/2)

アクションプラン (小項目)	小項目説明	タスク (案)	Phase 1	Phase 2	Phase 3
ii 都道府県協会の 組織基盤の 検証・構築・ 強化	地方協会の組織 基盤の確立及び・ 関連団体 (スポーツ少年団、 中学校部会、 高体連、日学連、 マスターズなど) との関係性整理	関連団体との関連性・連携状態の見直し	日本における組織形態 の検討・構築をし、 人材の発掘育成を行う	育成した人材を国内に おいてのプレゼンス 向上を行う	Phase 2で国内での プレゼンスの向上を 行った後、Phase 3にて 国外においての プレゼンス向上させる
		都道府県協会の現状把握・ヒアリングの実施			
		都道府県協会の役割の再定義 (日本協会との棲み分け)			
		都道府県協会におけるガバナンスの確立			
		都道府県協会での中長期計画の策定			
		ブロック協会の機能化			
		人材育成、組織運営、中期計画策定サポート 機能の設置			
		興行（日本代表戦）運営における協力体制構築			
iii ホッケー ジャパンリーグ の検証・構築・ 強化	ホッケージャパン リーグの在り方の再 検討を行う	リーグの「あるべき姿」の提言 (検討組織の設立)			
		地域クラブの運営支援・設立サポート体制の構築			
		各種大会の再定義			
		TOPリーグまでの昇降格ルート of 整備			



2. 組織

◆詳細◆ B. JHA Presenceの向上

			Phase 1	Phase 2	Phase 3
アクションプラン (小項目)	小項目説明	タスク (案)	日本における組織形態の検討・構築をし、人材の発掘育成を行う	育成した人材を国内においてのプレゼンス向上を行う	Phase 2で国内でのプレゼンスの向上を行った後、Phase 3にて国外においてのプレゼンス向上させる
i 国内ホッケー界における地位向上	歴史ある競技の一つとしてJOCやJSCに対して影響力を持つ存在となる	他NFとの関係性の構築 (研究・交流・共同事業の実施)			
		JOC、JSCとの人間関係の強化			
		JOC専門委員会等への人材の輩出			
ii 国際スポーツ界における地位向上	FIHとの関係を強めて専門委員会委員及びFIH/AHF役員を輩出し、アジアで最も影響力を持つ団体となる	国際情報収集力の向上			
		FIH専門委員会委員への人材輩出策の検討 (ターゲットの作成、候補者の選定と支援)			
		人事交流や選挙対策の実施			



2. 組織

◆詳細◆ C. 人材育成・養成 (1/2)

			Phase 1	Phase 2	Phase 3
アクションプラン (小項目)	小項目説明	タスク (案)	日本における組織形態の検討・構築をし、人材の発掘育成を行う	育成した人材を国内においてのプレゼンス向上を行う	Phase 2で国内でのプレゼンスの向上を行った後、Phase 3にて国外においてのプレゼンス向上させる
i インテグリティ意識の浸透・徹底	ドーピング、ハラスメントを根絶し、ホッケーの価値向上を行う	強化指定選手のみならず、ホッケーに携わる選手・指導者全体への教育体制の構築			
		地域で活動する人材情報の集約、活動履歴のデータベース化			
ii 競技役員人材の発掘・育成 (インドア含む)	地域から国際までの活動を対象とするタレントマネジメントシステムの構築とそれに基づいた競技役員ライセンス制度の再設計	データベースを活用し、育成指導の効率化、モチベーション向上に資する			
		競技役員ライセンス制度の再設計、表彰制度の推進			
		競技役員表彰制度の推進			



2. 組織

◆詳細◆ C. 人材育成・養成 (2/2)

アクションプラン (小項目)	小項目説明	タスク (案)	Phase 1	Phase 2	Phase 3
iii 指導者人材の 発掘・育成・ 地位向上	多様化するスポーツ ニーズを踏まえた 指導者の養成 プログラムを 進化させると 同時に指導者の 社会的地位向上を 図る	日本スポーツ協会等の定める資格の明確化、地域 から全国のレベルに応じた活動範囲の推奨	日本における組織形態 の検討・構築をし、 人材の発掘育成を行う	育成した人材を国内に おいてのプレゼンス 向上を行う	Phase 2で国内での プレゼンスの向上を 行った後、Phase 3にて 国外においての プレゼンス向上させる
		有資格者の地位の向上を図るべく、資格獲得後の ホッケー独自のフォローアップ研修システムの 構築および実施			
		一環指導システムに対応したタレント指導者の発 掘、地域の指導者のリーダーとなる人材の育成を 行う組織の再構築			
		全ての指導者に最新の情報を提供できる 組織づくり			
iv 協会運営 最適化のための 人材の登用	(内部) 協会組織 人材の要請・登用 (外部) 外部人材の 活用	事務局運営を充実させるための人材プランの 策定・登用 (正社員・パート)			
		業務単位・プロジェクト単位など適した人材の 外部からの登用を行うためのシステム構築 (副業・兼業)			



3. コミュニケーション



3. コミュニケーション

◆概要

リーダー	• (TBD)		
サブリーダー	• (TBD)		
関連部署	【リード】マーケティング委員会 【サブ】総務委員会、財務委員会、国際委員会、広報委員会 【サポート】事務局		
目的	• JHA100周年をきっかけにブランディングキャンペーンを行うことで、更なるHockey Familyの拡充を図る		
アクション項目	A) ブランディング B) パートナーシップ/B2Bマーケティング C) ICTの活用		
KPI	<ul style="list-style-type: none"> 理念・ビジョン・クレドの浸透度合いの継続的向上 既存パートナー全社に対しパッケージ見直し及びアクティベーションの更なる価値創出 新規システムの2021年度内での運用開始 		
測定方法	• 実績、アンケート		
フェーズ別 アクション	Phase 1	Phase 2	Phase 3
	JHA理念の普及・浸透及び 新たなシステムの構築 (ICT・パートナー戦略)	構築したシステムを運用の上、 コミュニケーション・ パートナーシップの拡充を図る (v1.0)	構築したシステムを運用の上、 コミュニケーション・ パートナーシップの 更なる拡充を図る(v2.0)



3. コミュニケーション

◆詳細◆ A.ブランディング

			Phase 1	Phase 2	Phase 3
アクションプラン (小項目)	小項目説明	タスク (案)	JHA理念の普及・ 浸透及び新たなシス テムの構築 (ICT・ パートナー戦略)	構築したシステムを 運用の上、コミュニ ケーション・パート ナーシップの拡充を 図る (v1.0)	構築したシステムを 運用の上、コミュニ ケーション・パート ナーシップの更なる 拡充を図る (v2.0)
i	JHA理念・ ビジョンの浸透	自分のこととして捉えてもらうこと (内在化) への方策の検討			
		ホッケーファミリー があまねく理念・ ビジョン・ スローガンに共感し、 行動規範に基づいた アクションがとれる 組織をめざす	一貫して使用するクレドの作成		
ii	日本代表の 価値向上の ための ブランディング	取り組み事例の共有や表彰制度の設置 (継続の仕組みづくりの構築)			
		日本代表の 価値向上のための ブランディングを 行うことで、日本に おけるホッケーの 浸透に貢献する	日本代表のブランディング戦略の立案		
		日本代表戦の価値向上 (プロモーション施策、 試合会場のエンタメ化、戦略的な観客動員策の 策定)			



3. コミュニケーション

◆詳細◆ B.パートナーシップ/B2Bマーケティング

			Phase 1	Phase 2	Phase 3
アクションプラン (小項目)	小項目説明	タスク (案)	JHA理念の普及・ 浸透及び新たなシス テムの構築 (ICT・ パートナー戦略)	構築したシステムを 運用の上、コミュニ ケーション・パート ナーシップの拡充を 図る(v1.0)	構築したシステムを 運用の上、コミュニ ケーション・パート ナーシップの更なる 拡充を図る(v2.0)
i パートナー シップ活動の 実践・推進	マーケティング 基盤の整備	既存パートナー企業や新規獲得に向けた マーケティングプランの作成			
		マーケティング会社の設立を含めた 組織体制プラン策定			
	マーケティング 活動の実践	パートナーシップセールスの実施			
		チケット販売、放映権、マーチャндаイジングの 実施 (財源と連携)			
		パートナーアクティベーションを通じた マーケティング活動の推進			



3. コミュニケーション

◆詳細◆ C. ICTの活用

アクションプラン (小項目)	小項目説明	タスク (案)	Phase 1	Phase 2	Phase 3
i B2Cにおける デジタル マーケティング の実践	タイムリーな 情報発信の実施 によるファン層 の拡大	WEB/SNSを活用した情報発信可能な 体制の構築	JHA理念の普及・ 浸透及び新たなシス テムの構築 (ICT・ パートナー戦略)	構築したシステムを 運用の上、コミュニ ケーション・パート ナーシップの拡充を 図る(v1.0)	構築したシステムを 運用の上、コミュニ ケーション・パート ナーシップの更なる 拡充を図る(v2.0)
		コンテンツ作成～情報発信後のフォローアッ プのサイクル構築			
		データベース構築後のよりターゲットに適し た報発信			
ii 情報 セキュリティー・ リテラシー強化	情報取り扱いの レベルアップ 及び徹底	情報セキュリティーポリシーの策定			
		運用体制の確立と運用・徹底			
		マーケティング業務への適用 (個人情報の 取り扱い規定や運用ルール)の策定)			
lii Hockey Family 管理・活用の ための データベース 構築	普及に必要な ステークホルダー属性 などの分析及び、 それらを管理する データベースの 構築と運用	登録競技者を含む会員データベース (ホッ ケー統合データベース) の設計・構築 (業務委託先を含む)			
		登録競技者を含む会員データベースへの登録 (マーケ用の志向の把握含む)			
		顧客 (観戦者などB2C) の分析の上 マーケティングへの活用			



4. 事業



4. 事業

◆概要

リーダー	<ul style="list-style-type: none"> 近藤 聡史 		
サブリーダー	<ul style="list-style-type: none"> 宮野 正喜、福島 雅裕 		
関連部署	【リード】 特命（イベント） 【サブ】 普及委員会、財務委員会、技術委員会、広報委員会、マーケティング委員会 【サポート】 事務局		
目的	<ul style="list-style-type: none"> 常に新しいチャレンジに全力で挑むことで、革新的なJHAを創造する 		
アクション項目	A) 各種大会の再設計 B) インドアホッケー C) JHA100周年		
KPI	<ul style="list-style-type: none"> 新しい大会の実施 インドアイベント開催 1回以上/年 100周年実行委員会の設立と検討会の実施 		
測定方法	<ul style="list-style-type: none"> (TBD) 		
フェーズ別 アクション	Phase 1	Phase 2	Phase 3
	i. イベントの分析・知見の収集	▶ 再設計・体制構築	▶ 随時見直しの上改善
	ii. 体制構築・整備の上、国内普及の基盤を確立	▶ エンタテインメント性を備えたイベントとして新たなファン層の拡充及び人材・運営体制の拡充	▶ 長期的なイベント運営体制の構築
iii. 体制確立及び事業企画	▶ JHA100周年という特別なタイミングをフル活用した事業の実施	▶	-



4. 事業

◆詳細◆ A. 各種大会の再設計 (1/2)

			Phase 1	Phase 2	Phase 3
アクションプラン (小項目)	小項目説明	タスク (案)	イベントの分析・ 知見の収集	再設計・体制構築	随時見直しの上 改善
i (国際) 国際大会・ 試合の開催	国内外の情勢や ステークホルダーを 考慮した戦略的な 開催期日の設定	2030WC及び全カテゴリーにおける選手強化を見据えた 国際大会誘致・開催計画の策定 (最低年1回開催)			
ii (国内) ホッケー ジャパン リーグ、 全日本選手権、 各種JHA主催 大会の再設計	少子高齢化、 企業スポーツ動向等の 社会環境の変化と ニーズの多様化を 踏まえ、大会への 参加意欲を高め、 各カテゴリー及び 地域において選手層・ 競技力を厚くする ための魅力的な 大会の再設計	現状の分析・検討			
		各大会の価値や意義の包括的見直し・再設計			
		東京2020大会のノウハウの獲得と蓄積 (マニュアルブック作成など)			



4. 事業

◆詳細◆ A. 各種大会の再設計 (2/2)

			Phase 1	Phase 2	Phase 3
アクションプラン (小項目)	小項目説明	タスク (案)	イベントの分析・ 知見の収集	再設計・体制構築	随時見直しの上 改善
iii	大会運営 ノウハウの 体系化と 効率化	大会開催・運営に関する知見・技術を確実に継承し、 結果効率的かつ費用軽減につなげる組織・システムの設立			
		各種大会の知見・ネットワークを確実に継承し、 より魅力的な大会を実施するための イベントディレクター制度の導入			
		2030WC及び全カテゴリーにおける選手強化を見据えた 国際大会誘致・開催計画の策定（最低年1回開催）			



4. 事業

◆詳細◆ B. インドアホッケー (1/2)

アクションプラン (小項目)		小項目説明	タスク (案)	Phase 1	Phase 2	Phase 3
i	JHAにおける 体制と整備	インドアホッケー 日本代表強化システム の確立するべく、 まず体制と整備を行う	世界のインドアに取り巻く状況、環境や普及 施策の調査	体制構築・整備の上、 国内普及の基盤を確立	エンタテインメント性 を備えたイベント として新たなファン層 の拡充及び人材・運営 体制の拡充	長期的なイベント運営 体制の構築
			調査に基づき日本国内環境を踏まえた 発展戦略、ロードマップの決定			
			戦略に基づき検討、実行できる組織の設立 (インドア部会)			
			強化方針の策定と実施			
ii	国内における 普及	誰もが簡単に アクセスし理解できる 情報の整備と国外から の指導者招聘による 技術向上を図る	インドアをテーマとしたイベントの試験実施			
			主要ターゲット層 (キッズ) の設定および アプローチ、プロモーション方策の決定			
			FIH、AHFのサポートによる指導者派遣			



4. 事業

◆詳細◆ C. JHA100周年

アクションプラン (小項目)	小項目説明	タスク (案)	Phase 1	Phase 2	Phase 3
JHA100周年 i プロジェクトの 実施	過去100年の軌跡を振り返り、過去への敬意を払うとともに、これからの100年の未来への展望を対外的に発信する	JHA100周年準備委員会の設立	体制確立及び事業企画	JHA100周年という特別なタイミングをフル活用した事業の実施	-
		記念事業の計画 (マーケティング・式典・記念誌・記念大会など) およびロードマップ策定			
		式典の実施			
		100周年に合わせた1年間を通したマーケティング・イベントの実施			
		過去の出版物や映像・写真資料などの収集とデジタル化 (アーカイブの整理)			



5. 財源



5. 財源

◆概要

リーダー	<ul style="list-style-type: none"> 井上 雄介 		
サブリーダー	<ul style="list-style-type: none"> 坂本 幼樹、井上 智晶 		
関連部署	【リード】財務委員会 【サブ】総務委員会、マーケティング委員会 【サポート】事務局		
目的	<ul style="list-style-type: none"> JHAとしての自立運営可能な自主財源基盤の構築 		
アクション項目	A) パートナーとの連携強化 B) 財源システムの再構築		
KPI	<ul style="list-style-type: none"> (TBD) 		
測定方法	<ul style="list-style-type: none"> (TBD) 		
フェーズ別 アクション	Phase 1	Phase 2	Phase 3
	スポンサーから真のパートナーへ するべく、スポンサーに対する 新規価値創出をし、スポンサーの 継続及び新規獲得を行い、東京2020 以降の財政基盤の構築を行う	スポンサー以外の収入源について 収入モデルの再検討をし、 スポンサー以外の収入源の 再構築・確保を行う	2030WC開催に向けた財源確保を 強化すべく、メディア露出増加 など、収入源のより多角化を図る



5. 財源

◆詳細◆ A. パートナーとの連携強化

			Phase 1	Phase 2	Phase 3
アクションプラン (小項目)	小項目説明	タスク (案)	スポンサーから真のパートナーへするべく、スポンサーに対する新規価値創出をし、スポンサーの継続及び新規獲得を行い、東京2020以降の財政基盤の構築を行う	スポンサー以外の収入源について収入モデルの再検討をし、スポンサー以外の収入源の再構築・確保を行う	2030WC開催に向けた財源確保を強化すべく、メディア露出増加など、収入源のより多角化を図る
i	パートナー（スポンサー・サプライヤー）との付加価値創出 パートナーとの間の価値共有の実践と、お互いが期待することの明確化により、長期安定的な関係を構築する	中長期の関係性を維持するための人間関係の構築			
		パートナー各社のニーズの把握			
		新しい形のパートナーシップの構築			
		定期的なパートナーミーティングの実施し、JHAの方針共有とパートナーアクティベーションの計画・チェックを行う（上位パートナー中心）			
iv	新規パートナー獲得に向けた施策の実施 JHAの理念や方向性に共感する新たなパートナーシップを開発する	既存のパートナー権益の整理とセールスシートの見直し			
		パートナーの種類の拡大・見直し検討			



5. 財源

◆詳細◆ B. 財源システムの再構築 (1/2)

アクションプラン (小項目)		小項目説明	タスク (案)	Phase 1	Phase 2	Phase 3
				スポンサーから真のパートナーへするべく、スポンサーに対する新規価値創出をし、スポンサーの継続及び新規獲得を行い、東京2020以降の財政基盤の構築を行う	スポンサー以外の収入源について収入モデルの再検討をし、スポンサー以外の収入源の再構築・確保を行う	2030WC開催に向けた財源確保を強化すべく、メディア露出増加など、収入源のより多角化を図る
i	財務戦略の立案・実行	効果的かつ効率的な財務運営	過去実績の財務分析			
			中長期財政計画と予算配分の考え方の整理			
			中長期財政計画の策定と遂行			
			会計処理の正確性の向上・効率化			
			予実管理の徹底			
ii	収入源の見直し	競技環境充実のための取り組みと登録制度の改定	現行の登録制度と登録料の見直し			
		寄付金やファンクラブ財源の検討	寄付金戦略構築 (確保、活用など)			



5. 財源

◆詳細◆ B. 財源システムの再構築 (2/2)

			Phase 1	Phase 2	Phase 3
アクションプラン (小項目)	小項目説明	タスク (案)	スポンサーから真の パートナーへするべく、 スポンサーに対する新 規価値創出をし、スポ ンサーの継続及び新規 獲得を行い、東京2020 以降の財政基盤の構築 を行う	スポンサー以外の収入 源について収入モデル の再検討をし、スポ ンサー以外の収入源の再 構築・確保を行う	2030WC開催に向けた財 源確保を強化すべく、 メディア露出増加など、 収入源のより多角化を 図る
iii	新たな収入源の 拡充	放映権、グッズ、入場料、などの増強施策 検討チームの発足			
		代表選手肖像などの権利関係の整理と収益の 最大化 (選手への還元策の検討を含む)			
iv	積立金の計上	大会運営による 多額の財政支出に 対する中長期的な 視点からの準備	年間積立必要額の策定と予算への反映		



6. 普及



6. 普及

◆概要

リーダー	<ul style="list-style-type: none"> 大久保 文義 		
サブリーダー	<ul style="list-style-type: none"> 石川 伸男、梅本 勝利、久保 克敏、小原 直也 		
関連部署	【リード】 普及委員会 【サブ】 総務委員会、技術委員会、広報委員会 【サポート】 財務委員会、事務局		
目的	<ul style="list-style-type: none"> 全国におけるHockey Familyの拡充 		
アクション項目	A) (する) 競技者数拡大 B) (みる) 観戦環境整備 C) (ささえる) 支援体制・環境制度整備		
KPI	<ul style="list-style-type: none"> (する) 全国での登録競技者数を前年比5%向上を目指す(少年は現状維持、マスターズを増やす) (みる) 一般の方のホッケーに対する興味・関心度アップを図り、各種大会を見る⇒観るになるように取り組み、大会来場者数が前年比5%向上を目指す(ホッケー関係者・大学OBそして地域から見に来てくれる環境整備⇒一般の方が見に来てくれる環境整備) (ささえる) 地域コミュニティとの連携による大会運営等の模索、実践し、東京を模範とした体制を全国に波及させ、前年度比最低1大会増加できるようにする(大会運営(競技運営、競技会運営のやり方の工夫)) 		
測定方法	<ul style="list-style-type: none"> (する) JHA登録者数の確認、世代別登録者の確認、都道府県別未登録チームの確認 (みる) 大会来場者への調査、YOUTUBE閲覧者 (ささえる) 地域コミュニティとの連携による大会運営を実践している大会視察、都道府県協会とのヒアリング調査 		
フェーズ別 アクション	Phase 1	Phase 2	Phase 3
	i. 若年層に対応する競技機会の拡充	あらゆる年代層に対応する競技機会の拡充	継続的競技機会提供のサポート
	ii. ホッケーの認知向上の施策検討・実施	地域における観戦機会の充実	観戦経路の拡充
※アクション項目別	iii. 各地域における現状把握及びサポート体制の構築	サポート体制を活用した活動推進	サポート体制の継続的改善・活用



6. 普及

◆詳細◆ A. (する) 競技者拡充

			Phase 1	Phase 2	Phase 3
アクションプラン (小項目)	小項目説明	タスク (案)	若年層に対応する 競技機会の拡充	あらゆる年代層に 対応する 競技機会の拡充	継続的競技機会 提供のサポート
i あらゆる年代層 (シニア・キッズ) の参加促進となる ホッケー環境整備	現在の個人環境も 意識した競技者拡充	キッズへのJHAサポート策の検討 (助成金、登録料免除等)			
		キッズ・シニア層を含めたアプローチ (誘い) の強化			
		所属チームがなくても活動できる環境、 体制構築			
		年代別の情報発信方法の検討・実施			



6. 普及

◆詳細◆ B. (みる) 観戦環境整備

アクションプラン (小項目)		小項目説明	タスク (案)	Phase 1 ホッケーの認知 向上の施策 検討・実施	Phase 2 地域における 観戦機会の充実	Phase 3 観戦経路の拡充
i	ホッケーの エンタテインメント的 要素の普及	競技性を大切にしながらも、 エンタテインメント性を 追求することで、新たな 付加価値の創出を行う	競技会場にてあらゆる年代層が楽しめる 新たなエンタテインメント性に富んだ 仕掛けの検討・実施 (気軽に行ける場所)			
ii	見て楽しめる 「ホッケー」環境整備	新たなファンを 増やすべく、 ホッケーの楽しみ方の 発信	観戦のポイント (戦術やルール) の動画作成、 YouTube公開			
			メディア戦略 (メディアを通じた拡散方法策定)			
			わかりやすく聴きやすい試合解説者の育成			
			応援グッズの作成			
		代表応援ソング策定				
iii	興味関心喚起の ための施策実施	来場者やメディアを通じた オーディエンスに対する ホッケー普及に貢献する 施策検討・実施	非競技者の興味をそそるコンテンツの検討 (他産業・異業種とのコラボレーション含む)			
			スタッツ (記録、統計) の収集、蓄積および 活用システムの構築・活用			
			関心層に対する更なる価値創出のための 調査実施の上コンテンツ設計			



6. 普及

◆詳細◆ C. (ささえる) 支援体制・環境制度整備

アクションプラン (小項目)	小項目説明	タスク (案)	Phase 1 各地域における 現状把握及び サポート体制の構築	Phase 2 サポート体制を 活用した活動推進	Phase 3 サポート体制の 継続的改善・活用
i チームオーナー・ 地域スポンサーとの新規 開拓・強化連携・ 活動サポート・ 地域スポンサーとの 新規開拓・強化 連携・活動サポート	各地域での ホッケー普及 度合い・特性に 基づいた地元 スポンサー・ クラブとの連携 開拓・強化・サポ	地域連携状況の把握・調査			
		地域サポーター（経済界、地元企業、スポンサーなど）活用方法のレクチャー実施・資料提供			
		地域サポーターとの連携を表彰する制度の導入			
		国体開催地への重点的な支援策（開催地へのレガシー）			
ii 地域・自治体との 連携強化	地域において活動を 支えるシステムの 整備・サポート	地域に貢献できる大会運営形態の構築サポート			
		各地自治体での助成金申請サポート			
iii ボランティア ネットワークの形成	地域におけるボラン ティア活用の推進	地域ボランティアネットワーク形成のサポート			
iv 教育現場(小中高大) と地域クラブとの 連携強化	教育現場との 連携を促進し 支える環境を整備	教育現場への現状検証及び支援策の検討			



7. 社会貢献



7. 社会貢献

◆概要

リーダー	<ul style="list-style-type: none"> 奥田竜子 		
サブリーダー	<ul style="list-style-type: none"> 井上智晶 		
関連部署	【リード】 総務委員会 【サブ】 普及委員会、広報委員会、マーケティング委員会 【サポート】 事務局		
目的	<ul style="list-style-type: none"> 社会貢献を通じ地域社会におけるホッケーの認知・好意度の向上をし、基盤強化を図る 		
アクション項目	A) SDGsの取り組み B) ユニセフの取り組み C) 国際交流の促進		
KPI	<ul style="list-style-type: none"> SDGsに関する取り組みを年4回（四半期ごと）に取りまとめを発信 		
測定方法	<ul style="list-style-type: none"> 実績（実施回数） 		
フェーズ別 アクション	Phase 1	Phase 2	Phase 3
	既存の社会貢献活動をよりSDGsにリンクさせながらさらに推進させるとともに、そのほかにホッケーがSDGsに与える価値を検証した上、特定の地域において実践し成功事例を創る	Phase 1の成功事例をベースに各地域にて実践する	Phase 2の結果を元により社会貢献活動を充実させ、活動を通じた価値の創出を強化する



7. 社会貢献

◆詳細◆ A. SDGsの取り組み

アクションプラン (小項目)		小項目説明	タスク (案)	Phase 1	Phase 2	Phase 3
				既存の社会貢献活動をよりSDGsにリンクさせながらさらに推進させるとともに、そのほかにホッケーがSDGsに与える価値を検証した上、特定の地域において実践し成功事例を創る	Phase 1の成功事例をベースに各地域にて実践する	Phase 2の結果を元により社会貢献活動を充実させ、活動を通じた価値の創出を強化する
i	地域振興・活性化への寄与	地域振興・活性化に直結するSDGs項目の実行	地域振興・活性化に関するSDGs項目の整理			
			実施中の事業で地域振興・活性化にリンク可能な事業の洗い出し			
			実行の上、対外的アピール・発信			
ii	環境保全	環境保全に関するSDGs項目の実行	実施中の事業で環境保全にリンク可能な事業の洗い出し			
			実行の上、対外的アピール・発信			
			環境保全に関するSDGs項目の整理			
iii	ジェンダー平等	ジェンダーに関するSDGs項目の実行	実施中の事業でジェンダーにリンク可能な事業の洗い出し			
			実行の上、対外的アピール・発信			
			ジェンダーに関するSDGs項目の整理			



7. 社会貢献

◆詳細◆ B.ユニセフの取り組み

			Phase 1	Phase 2	Phase 3
アクションプラン (小項目)	小項目説明	タスク (案)	既存の社会貢献活動をよりSDGsにリンクさせながらさらに推進させるとともに、そのほかにホッケーがSDGsに与える価値を検証した上、特定の地域において実践し成功事例を創る	Phase 1の成功事例をベースに各地域にて実践する	Phase 2の結果を元により社会貢献活動を充実させ、活動を通じた価値の創出を強化する
i	子どもの権利とスポーツの原則の推進	ユニセフとの取り組みである子供の権利とスポーツの原則の推進の強化 プログラム構築 (枠組み・資料作成など)			
		実行の上、対外的アピール・発信			



7. 社会貢献

◆詳細◆ C.国際交流の促進

			Phase 1	Phase 2	Phase 3
アクションプラン (小項目)	小項目説明	タスク (案)	既存の社会貢献活動をよりSDGsにリンクさせながらさらに推進させるとともに、そのほかにホッケーがSDGsに与える価値を検証した上、特定の地域において実践し成功事例を創る	Phase 1の成功事例をベースに各地域にて実践する	Phase 2の結果を元により社会貢献活動を充実させ、活動を通じた価値の創出を強化する
i	協力機関との連携	各地域にて国際交流・文化交流を促進するため、自治体や関連団体との連携を強化	関連団体・自治体などの洗い出し (東京2020のホッケー競技のホストタウンを行った地域を中心に検討)		
			洗い出したターゲットとなる関連団体・自治体などへ国際・文化交流を通じた連携案の作成 (ひな形)		
iv	ホッケーを通じた国際・文化交流	各地におけるホッケーを通じた文化交流事業の推進 地域における文化交流の連携推進			



8. 東京2020レガシー



8. 東京2020レガシー

◆概要

リーダー	<ul style="list-style-type: none"> 多氣 洋平 		
サブリーダー	<ul style="list-style-type: none"> 近藤 聡史、坂本幼樹、下平歩実、喜友名 詩織 		
関連部署	【リード】特命（アスリート） 【サブ】普及委員会、技術委員会、広報委員会 【サポート】事務局		
目的	<ul style="list-style-type: none"> 東京2020大会を起点とし未来へ繋げるソフト・ハードレガシーの創出 		
アクション項目	<ul style="list-style-type: none"> A) 大会運営ノウハウの継承 B) 大井ホッケー場の活用 C) セカンドキャリア支援 		
KPI	<ul style="list-style-type: none"> (次3ページ参照) 		
測定方法	<ul style="list-style-type: none"> (次3ページ参照) 		
フェーズ別 アクション	Phase 1	Phase 2	Phase 3
	i. 強固なネットワークの確立及び ノウハウの集約	➡ ノウハウの継続的アップデート 及びエンゲージメントの継続	➡ 2030年WCを意識した継続的な ノウハウのアップデート及び エンゲージメントの実施
	ii. 地域の拠点として確立させ、 地域との連携強化を図る	➡ 大会誘致・実施を行い 聖地化としての確立を行う	➡ 会場を活用した収益モデル の構築・確立
	iii. 卒業生ネットワークの整理・ 確立し、地域における人材の 確保を行うとともに、地域に おける活動場所の特定	➡ 地域での活動を支援するシステム 構築及びマッチング	➡ セカンドキャリアサポートの拡充



①KPIの作成（+測定方法）

◆重点領域：【8】東京2020レガシー A) 大会運営ノウハウの継承

KPI	理由・根拠	測定方法	測定頻度
①人的ネットワークの維持・発展 東京2020の組織委、ボランティア、 スタッフのデータベース作成 年1回以上の情報交換会 JHA国際委員会等への人材の抛出	これまで：「競技会」= 競技運営→競技役員 これから：「大会」= 大会運営→競技役員+大会運営 スタッフ 東京2020を機に「観る人」や地域の巻き込みを意識した、 専任の大会運営スタッフの育成および大会ディレクターを トップとした、地域協会、自治体、ボランティア等を含む、 組織モデルの構築が必須。 国際大会の誘致・運営ができる人材育成および確保	データベースの作成・更新 情報交換会の実施 複数名の人材の輩出	年1回（年度末）
②ノウハウの維持、拡大 運営マニュアルの策定と更新、年1回 以上の大会運営研修会の実施 大会イベントディレクター制度の創設		マニュアルの策定・更新 研修会の実施 大会運営組織の体系化	年1回（年度末）



①KPIの作成（+測定方法）

◆重点領域：【8】東京2020レガシー B) 大井ホッケー場の活用（=大井レガシープロジェクト）

KPI	理由・根拠	測定方法	測定頻度
①大会開催検討チーム 2023年度 23大会の開催および円滑な運営 （内訳）国際1、全国5、HJL4、地域7、都6	東京都の施設運用計画に則り	実施回数	年1回（年度末）
②クラブ・サポーター支援検討チーム 2030年度 観客動員50,000人 OHSをホームとするHJLチーム2以上 品川区/大田区ジュニア4チーム以上	東京都の施設運用計画（75,000人/年の利用者数）に則り、観客数を50,000人と試算。地域住民が応援できるホームチームの育成を併せて設定	a.利用者実数の計測 b.観客への満足度調査	a.大会ごとに計測 b.年10回程度来場者アンケート
③ホッケービレッジ検討チーム 200日/年の代表チーム合宿 NTC化	主に平日の稼働率アップため。年4500万円の施設利用料の内、大会1500万、残3000万分の利用NTC化による助成金の活用	a.実施回数 b.施設利用料の確認	a.年1回（年度末） b.4半期ごと
④施設運用検討チーム 土日祝のホッケー優先利用（N：90%以上、S：35%以上）ホッケーによる利用4500万円/年 それ以外の利用1000万円以上/年	年23大会実施のために必要な日数の確保。東京都の施設運用計画に則った施設維持予算よりホッケー利用分を算出	a.優先利用日数 b.施設利用料の確認（他用途含む）	a.前年度秋（10～11月？） b.4半期ごと



①KPIの作成（+測定方法）

◆重点領域：【8】東京2020レガシー C) セカンドキャリア支援

KPI	理由・根拠	測定方法	測定頻度
①卒業生ネットワークの構築 OB/OGの登録データベースの作成および更新（年1回） 登録者への定期的なホッケー情報の発信（年4回以上）	ホッケーファミリーの維持、拡大の為に毎年相当数部活を卒業する人財の継続的なホッケーへの関与を促すことが必須である。	a.データベースの作成・更新 b.メルマガなど定期的な情報発信	a.年1回（年度末） b.年4回
②スポーツ活動サポート 地域協会、ブロック協会へのOB/OGデータベースの共有（年1回） 人財マッチング（協会間での情報交換会）	また、有為な人財に大会/競技運営、チーム運営等、幅広い分野でホッケーを支援してもらうため、たゆまぬ関係性の維持を目的とした取り組みをおこなう。	データベースの共有	年1回
③セカンドキャリアサポート 現役代表選手へのキャリアカウンセリング研修の実施（年1回以上） 相談窓口の設置（選手からの相談件数00件以上） 引退したトップ選手のキャリア構築サポート（年3～5人程度）	現役時代から引退後のキャリア構築をイメージしてもらうことで安心して競技に打ち込んでもらう。 後進のキャリア育成サポートに携わってもらう。（サイクル化）	a.研修会の実施 b.相談件数のカウント c.キャリア構築サポート実施人数のカウント	a.年1回 b.年1回 c.年1回



8. 東京2020レガシー

◆詳細◆ A. 大会運営ノウハウの継承

			Phase 1	Phase 2	Phase 3
アクションプラン (小項目)	小項目説明	タスク (案)	強固なネットワーク の確立及び ノウハウの集約	ノウハウの継続的 アップデート及び エンゲージメントの 継続	2030年WCを意識 した継続的な ノウハウの アップデート及び エンゲージメントの 実施
i 国内外の人的 ネットワークの 維持・発展	東京2020大会で 構築した人的ネット ワークの保持及び 発展するとともに、 大会運営にて得た ノウハウ継承を行う	東京2020のデータベース構築（ボランティア、 組織委員会、スタッフなど）し、東京2020以後 の各地における大会運営に活用する			
		東京2020以後の継続的関与を促すために、Thank You Volunteerイベントやボランティアカップ など、継続的エンゲージメントの検討・実施			
ii ノウハウの 維持・活用	世界最高レベルの 大会運営ノウハウを 責任をもって集約し、 全国に展開する 組織の確立	組織委員会を通じ構築したFIH,AHFとの リレーションを2030WCの招致・開催に向けて 維持・強化する			
		大会開催・運営に関する知見・技術を確実に 継承し、結果効率的かつ費用軽減につなげる 組織・システムの設立			
		各種大会の知見・ネットワークを確実に継承し、 より魅力的な大会を実施するためのイベント ディレクター制度との連携			



8. 東京2020レガシー

◆詳細◆ B. 大井ホッケー競技場(OHS)の活用

			Phase 1	Phase 2	Phase 3
アクションプラン (小項目)	小項目説明	タスク (案)	地域の拠点として確立させ、地域との連携強化を図る	大会誘致・実施を行い聖地化としての確立を行う	会場を活用した収益モデルの構築・確立
i	大会開催	大井ホッケー場の聖地化を意図した、国際大会も含めた大会の計画・誘致及び稼働率の最適化	各種大会再設計をリードしているチームと連携し、大井ホッケー場における国際大会を含めた大会計画の検討・実施		
ii	地域連携	地域に支えられるホッケーを確立するために、地域との連携を強化し、良きパートナーとしてホッケーファミリーの拡充を図る	大井ホッケー場を中心としてトレーニング施設、宿泊施設、研修施設、会議施設等との提携を踏まえた、大井エリアのホッケーアスリートビレッジ化の推進 品川区、大田区、東京都との各種イベントやサポータープログラムや教育プログラムなどを通じた関係・連携強化		
iii	クラブチームの設立・育成	あらゆるカテゴリーにおいてOHSを活動拠点とするチームの誘致と創設を行う	OHSをホームとするチームの誘致・設立をし、チームによるOHSの自主的運営を目指す		
iv	OHSの収益化	2030WC財源確保も念頭に置いたOHSの収益化の確立	収益モデル策定、ロールアウト		
v	NTC招致も可能な施設の充実	NTC化できるだけの機能を備え代表の活動拠点とする	代表活動に必要な設備の要件を確認・補充 (NTCとして足りるレベル) NTC化の検討		



8. 東京2020レガシー

◆詳細◆ C.セカンドキャリア支援

アクションプラン (小項目)		小項目説明	タスク (案)	Phase 1	Phase 2	Phase 3
i	卒業生 ネットワーク の構築	競技の第一線を引退した各地にいるOB/OGのネットワークを構築し、引退後も全国においてホッケーを支援してもらう体制の構築を図る	OB/OGの選手登録を行うデータベースの構築および運用体制の確立			
			データベース登録 (選手・コーチ)			
ii	スポーツ活動 サポート	卒業生ネットワークと連動し、地域における活動の拡充を図り競技環境向上を行うためにマッチング活動などを通じた活動サポートを行う	地域における活動エリア、ポジションの情報の整備、集約、提供			
			データベース登録 (チーム)			
			データベースを活用したOB/OGとチームとのマッチング実施・支援			
iii	セカンドキャリア サポート (代表レベル)	選手引退後にホッケーを通じ得たスキルなどを活用し、引退後のキャリア形成の支援を行う	ホッケー人材に特化したセミナー、説明会などの開催支援			
			代表入り時点からのキャリアイメージ作成のサポート (キャリアカウンセリングの提供)			



9. 2030ワールドカップ誘致・開催



9. 2030ワールドカップ誘致・開催

◆概要

リーダー	・ 近藤 聡史		
サブリーダー	・ 中野 雅文、中野 雅文		
関連部署	【リード】国際委員会、特命（プロリーグ・2030WC招致） 【サブ】強化本部、広報委員会 【サポート】財務委員会、事務局		
目的	・ 東京2020大会以降に創出したホッケームーブメントの定着及び世界における日本のプレゼンスを確立させるきっかけとしての2030年WCの自国開催実現		
アクション項目	・ 2030WC誘致に向けた基盤づくり		
KPI	<ul style="list-style-type: none"> ・ FIH/AHF役員数 ・ 年間国際大会実施回数 ・ FIH/AHF会議出席回数 		
測定方法	・ 実績		
フェーズ別 アクション	Phase 1	Phase 2	Phase 3
	2030年誘致に向けた ロードマップの策定	誘致委員会設置の上、 ロビー活動を実施	誘致詳細プランおよび財源確保を 誘致委員会を中心に実施



9. 2030ワールドカップ誘致・開催

◆詳細◆ A. 2030WC誘致に向けた基盤づくり

アクションプラン (小項目)	小項目説明	タスク (案)	Phase 1	Phase 2	Phase 3
			2030年誘致に向けた ロードマップの策定	誘致委員会設置の上、 ロビー活動を実施	誘致詳細プラン及び 財源確保を誘致 委員会を中心に実施
i 開催に向けた ロードマップ の策定	実施した後のレガシー なども意識した上での 招致活動を行うべく、 ハード・ソフト面両方を 意識したロードマップの 策定を行う	ソフト面からの必要リソースの洗い出し			
		ハード面からの必要リソースの洗い出し			
		WC誘致決定後を意識したWC誘致 ロードマップの策定			
ii 国際ロビー活動 の実施	Tokyo2020オリンピック ムーブメントの余熱の あるうちの国際的招致 活動の前段となる 国際ロビー活動の実施	2030WC招致委員会の発足・体制確立			
		国際部会にて国際大会や様々な場面での ロビー活動を行うための招致プラン・ 資料の作成			
		ロビー活動実施			
iii 人材・ 財源確保	招致後の体制を見据え、 招致段階からの組織・ 人事体制の確立及び 財源確保を行う	2030年時点を考えた組織、人事設計			
		2030WC実施を可能とする財源確保のための パートナー企業との関係構築			

